

産・学・官

連携事例集

—企業マッチング事例—



INSTITUTE OF INDUSTRIAL PROMOTION

公益財団法人
川崎市産業振興財団

令和5年3月

はじめに

公益財団法人川崎市産業振興財団では、平成17年8月、公的支援施策の活用促進と優れた技術を有するものづくり企業の発展・育成を目的とした「コーディネート支援・出張キャラバン隊」を発足いたしました。以来、大企業や研究機関、大学などが持つ知的財産と中小製造業が持つ技術の融合（産学官連携）を目的として、発足以来、延べ6,000件を超える企業への訪問を実施しております。そして実際に経営者や技術者の方々とお会いし、要望に応じて助成金情報の提供、ビジネスパートナーや大学の紹介などを実施して参りました。

そうした訪問活動の中で出会った、産学連携や産産連携を通じた新技術や新製品の開発ですばらしい実績を残す企業を取材させて頂き、このたび連携に至った経緯や取り組み方をまとめた「連携事例集」として発行することとなりました。

新技術・新製品の研究開発について、「興味はあるが、やり方が分からない」「気後れしてしまう」という声も多く聞こえるように、経験のない企業にとっては産学連携や産産連携はハードルが高い課題として敬遠されている節がある一方で、一度でも経験したことがある企業は、以後も新製品・新技術開発の有効な手段として積極的に取り組んでいるようです。

どうすれば産学連携や産産連携が出来るのか、興味はあるが分からない、そんな経営者の皆様にとって、本冊子が参考の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本書の発行にあたり取材にご協力いただいた企業の方々に厚く御礼を申し上げます。

令和5年3月

公益財団法人 川崎市産業振興財団

目 次

頁

事例紹介（掲載事案 4 件）

1. 株式会社 グリーンニアン 4
2. t e n 株式会社 6
3. 株式会社 トーキンオール 8
4. 美遊 J A P A N 有限会社 10

支援事業紹介

- コーディネート支援活動・出張キャラバン隊
知的財産交流事業（川崎市知的財産戦略推進プログラム重点事業） 14
- 産学連携 試作開発促進プロジェクト
川崎市産業振興財団の中小企業支援活動 15
- かわさき起業家オーディション ビジネス・アイデアシーズ市場 16
- 新分野・新技術支援研究会（略称：NFT）
川崎ものづくりブランド認定事業 17
- 第 19 回 川崎ものづくりブランド認定製品・技術一覧事業 18

連携事例紹介

株式会社グリーンニアン

大学との継続的な共同研究による 壁面緑化の課題解決



代表取締役社長 岡田 陽介

株式会社グリーンニアンは、壁面緑化の計画から施工を一貫して請け負うとともに、布製の植木鉢に植えた植物を用いた移動可能な庭「コマニワ」の販売を行い、「都市部において、植物に触れる機会を増やす」ことを目的としている企業である。岡田陽介代表取締役社長が2016年に設立し、同年に弊財団の第101回「かわさき起業家オーディション ビジネス・アイデアシーズ市場」にて「かわさき起業家賞」を受賞している。産学連携を活用した壁面緑化の高度化についても積極的であり、日本大学 生物資源学部 生命農学科の大澤啓志教授とは2017年から継続して共同研究を実施している。

■ 共同研究のスタート

同社の大澤先生との共同研究のスタートは、壁面緑化において使用されるつる性植物の「順化」に関する課題である。順化を行わないと設置後の暑さなどに耐えることが難しく、枯れないまでも生育が悪くなり、非常に見た目が悪くなってしまふことがある。順化を行った苗はそれを行わないものに比べ、通常3倍の時間コストが必要となるが、見た目での判別は難しく、適正価格での販売が難しかった。そのため、非順化のものと明確に判断できる指標を見出すため、弊財団の支援で2017年に研究をスタートした。その後も様々なテーマについて継続して研究を行って来ている。

■ 複合施設における立ち枯れの原因究明

そのような中、2020年に施工した都内繁華街の複合施設において、施工した植物が一部立ち枯れしてしまうということがあり、詳細について大澤教授の研究室と確認することとした。まず、立ち枯れを起こした箇所とそうでない箇所のサンプルを採取し、研究室で分析を行った。遺伝子解析を行った結果、立ち枯れを起こしたユニットにおいてはFusarium 属菌が多く見られた。また、植栽ユニット内の温度を連続計測した結果、植栽ユニット内は1日の温度変化が小さく、夏季は平均温度が25℃を越えるような高温状態が幾日も続いていた。これによりFusarium 属菌が増殖し立枯症状が生じたものと推察された。



対象の壁面緑化地である都内複合施設

■ 研究成果だけではない人的交流のメリット

大学との連携は研究成果だけでなく、企業の人材面に寄与することもある。本研究においても、共同研究を開始してから、研究に関与した学生が同社に入社したり、同社と関連のある企業と一緒に仕事をしたりしている。ある程度長期に亘って企業と大学と一緒に、しかも実際の現場を含む環境で研究を行うので、学生にとっては一緒に共同研究に携わる中で企業の実際の業務や雰囲気等について十分に知ることができ、企業側も学生についてよく知ることができるため、お互いにメリットがあるものと思われる。

グリーンアンは今後も大澤先生との共同研究を継続し、壁面緑化の高度化を推進する予定である。



施工前の植栽ユニット

会社概要

企業名：株式会社 グリーンアン
創業：2016年（平成28年）7月
所在地：川崎市麻生区岡上1462-35
電話：050-3700-6344
代表者：岡田 陽介（オカダ ヨウスケ）
資本金：300万円
事業内容：
・壁面緑化事業 計画から施工までをワンストップで行う請負工事業
・建物に合わせた壁面緑化資材を、受注生産にて行う販売業
・移動可能な庭「コマニワ」の販売事業
URL：<http://www.greenian.co.jp/>

ten 株式会社 (川崎市知的財産交流事業)

大企業の開放特許を活用した
サスティナブルスイーツ！
「豆乳おからクッキーシュー」



代表取締役 丸山 佑樹

知財マッチングとは、知的財産の移転を手段とした企業や団体間のビジネスマッチングである。公益財団法人 川崎市産業振興財団（以下、当財団）は川崎市役所とともに、中小企業に対し大企業の特許技術を活用した自社製品を促す知財マッチング「川崎市知的財産交流事業」を全国に先駆けて取り組んでいる。本稿ではこの「川崎市知的財産交流事業」を最新の成約事例も含めて紹介する。

■ 「川崎市知的財産交流事業」とは

多くの大企業は、保有する知的財産が自社で活用されていないといった、いわゆる休眠特許問題を抱えており、一部の企業はその解決策として、休眠特許を開放特許（大企業がライセンスを前提に一般に開放する特許）として公表している。川崎市役所と当財団では有効に活用されていなかった「もったいない」開放特許を中心に紹介し、自社製品開発や既存製品の改良に役立ててもらおう知財マッチングを「川崎市知的財産交流事業」として平成19年度から重点的に実施している。大企業側からのライセンス供与等のマッチングが成功すれば、中小企業側には「0から開発する時間を省き、不足する技術を速やかに得られる」、「大企業のブランド力を活用できる」といったメリットが発生する。

■ 川崎市内資源を活用した街づくりや魅力を発信

溝の口駅周辺でシェアマーケット、カフェ、パン・洋菓子店を運営する ten(株)代表取締役の丸山佑樹氏。すべての営業形態で共通するコンセプトは「Local to Local」であり、川崎市内産の野菜や果物のみならず竹炭を活用するなど、市内にある様々な資源の魅力発信や街作りに努めている中で、市内の豆腐屋がおからの廃棄について困っていることを知った。

おからは豆腐製造時に使用した大豆の1.35倍程度発生し、栄養価が高いのにも関わらず、全体の約95%が産業廃棄物として処理されている。また、水分を多く含むため、焼却処分時には大量の化石燃料が必要となり、二酸化炭素の排出や不法投棄などが大きな社会問題となっている。こうした背景に加え、豆腐屋としては廃棄の際に処分費がかかることから利益率も圧迫、大量生産によるコストダウンの難しい小規模な豆腐店は廃業が進んでいるという実情がある。

これらのことから丸山氏は、おからの有効活用ができないか、と考え始め、自社のパン・洋菓子店「Len-Local Speciality Factory」にて、おからを使ったスイーツの開発に取り掛かった。

■ キューピーの知的財産を活用し新商品開発時の課題を解決

ten(株)が運営するパン・洋菓子店「Len-Local Speciality Factory」では、シュークリームが一番人気であるため、「おから」をシュー皮に混ぜ込んだものの、生のおからは吸水性が高く、クリーム充填後にシュー皮のサクサク感が持続しないという課題が出てきた。

そこで、川崎市産業振興財団が知的財産コーディネータと連携し、キューピー(株)の開放特許「廃棄物（卵殻粉）の有効利用：カルホープ」をマッチングした。

当該開放特許の原材料は卵殻紛であり、シュー皮に特定量含有させ焼き上げることにより、適度な硬さとサクサクとした歯切れのよい食感を持続させることができる。通常廃棄される「おから」と「卵の殻」を活用した、サスティナブルなシュークリームの開発に向け、関係者を集めて試食会を開催し、味や食感等について意見を出し合った。商品名は「豆乳おからクッキーシュー」と名付けられ、令和4年7月に完成し、川崎市産業振興会館で製品発表会を開いた。



【豆乳おからクッキーシュー】

今回完成した「豆乳おからクッキーシュー」を同社製品のサスティナブルライン第一弾とし、「SDGsは企業規模に関わらず、誰でも取り組むことが可能。弊社だけの取組に限定するものではなく、他地域の豆腐屋とパン屋・お菓子屋、あるいは飲食店でも簡単に取り組める内容なので、今後は川崎市とも連携し『サスティナブルプロジェクト』として市内全域で拡げていきたい。」と丸山氏は意気込む。



【製品発表会】

(左より)

キューピー株式会社 加納執行役員

t e n株式会社 丸山社長

川崎市産業振興財団 三浦理事長

会社概要

企業名：ten株式会社

創業：2019年（令和元年）4月

所在地：川崎市高津区下作延1-1-7

電話：044-400-1075

代表者：丸山 佑樹(マルヤマ ユウキ)

資本金：100万円

事業内容：菓子・パンの販売、飲食店

Instagramアカウント名：@1en_factory

株式会社 トーキョーオール

外出支援ロボット実用化促進の取組

～This is the 神奈川版オープンイノベーション～



代表取締役 吉田 基一 (写真は開発メンバー 一同)

株式会社トーキンオールは、トンネルの崩落防止工事に使用する金属鋼管部品の設計開発・製造販売を行っている。販売商品のうち約80%が自社開発の特許取得製品であることが当社の強みとなっており、大手企業からは、その技術とメンテナンスを含めた総合的な製品力が認められている。しかし、国内事業の歴史を振り返ると、決して順風満帆ではなかった。日本の中小製造業は1990年のバブル崩壊から徐々に売上が伸び悩む時期が続き、当社も同様の課題に悩んでいた。その中でも、“徹底した安全”と“少数精鋭”を貫き、数々の課題をお客様とともに解決しながらノウハウを蓄積し、自社商品を確立していった。

本稿で紹介する「外出支援ロボット」は、生粋の「ものづくり」好きである吉田社長が、平日・休日と関係なく既存事業からの新事業展開へと繋がるネットワーク構築に東西奔走するのが当たり前の日課となっていた結果、生まれた製品である。

製品の基本コンセプトは、高齢者や足腰の弱い方が安心して外出できるような電動車いすである。高齢者の外出支援だけでなく、運転免許返納者の移動手段、ショッピングモールや駅・空港内での移動手段など、多方面で様々な目的での使用ができる。(図表1)

また新型コロナ禍による外出制限中に新車輪のオムニホイールを開発し特許出願を行なっている。

図表1 製品の基本コンセプトと用途

基本コンセプト

高齢者や足腰が弱ってきている人の外出を支援する、
運転をアシストするロボット機能を備えることにより、
より安全な走行ができる特殊な6輪走行の電動車いす

- ・「人との共生」
- ・乗りたくなるようなデザイン、高い安全性を備えた機能
- ・高度な運転支援機能を備えたロボット

用途

- ・高齢者や足腰が弱ってきている人の外出支援
- ・運転免許返納者の移動手段
- ・ショッピングモールなど広範囲の商店での買い物の移動手段
- ・駅の連絡通路や空港内での移動手段
- ・特養ホームで散歩等の外出支援

前提条件として、一般公道(歩道)を走行するために、ハンドル形電動車いす(JIST 9208)の規格範囲に収めた。なお、運転免許証は不要であり、購入後即使用できるため、利便性にも富んだ製品となっている。(図表2)

図表2 外出支援ロボット『HV-0』



KISTEC デザイン



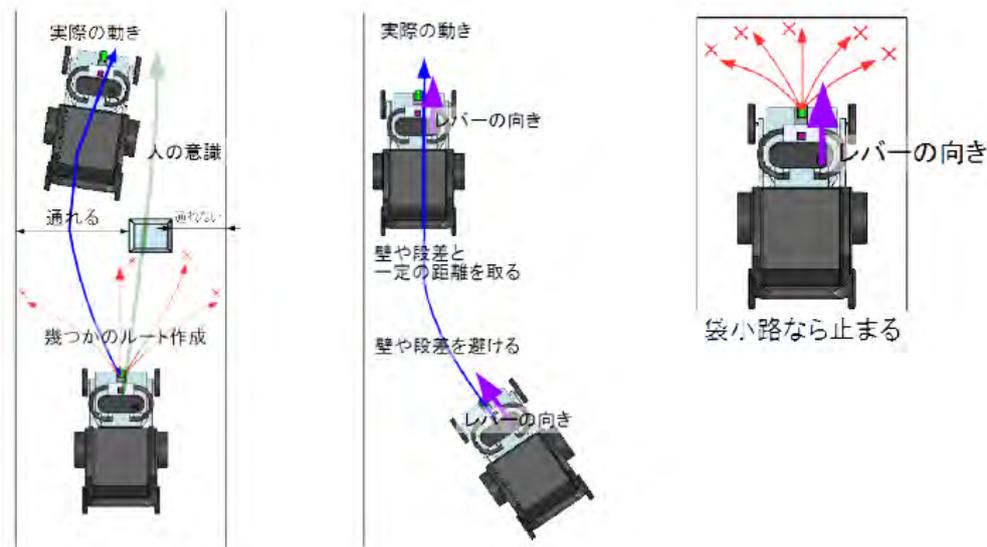
■ 産学連携、そして設計開発への道のり

平成 25 年 9 月から、さがみロボット産業特区にて「ロボット研究会」参加機関等によるニーズやシーズのマッチングを行い、どの方法で誰と組むか、資金面、事業計画等を練り、研究開発プロジェクトの立ち上げを進めてきた。プロジェクトメンバーは多岐にわたるほうが良いと考え、企業側：株式会社トーキンオール、有限会社坂本塗装工業所、有限会社前原機型製作所と、神奈川県にある 5 つの支援機関を中心に進めることとした。(※支援機関：①学校法人明治大学、②地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所 (KISTEC)、③神奈川県中小企業団体中央会、④川崎商工会議所、⑤公益財団法人 川崎市産業振興財団)

特に、明治大学の黒田洋司ロボット工学研究室および KISTEC からは、設計・規格・試験・知財・デザイン等、多方面の支援を得られた。自由関節を設けた薄型 6 輪機構の車台により転倒しにくいのが特徴であり、接地性、走行安定性が高くする技術について特許出願した。

さらに利便性を高めるため、このような技術をもとに、障害物や下り段差を認識して停止や回避を行うロボット機能を搭載することで、より安全な走行ができるようになった。(図表 3)

図表 3 ロボット機能の動き方と仕組み



■ 今後の展望について

「実用化目標にしていた 2025 年が近づいてきている。高齢者の外出手段用に開発してきているが、諸般の事情により部品調達が大幅に遅れている為苦慮している。製造方法を変更し実用化を目指したい。」と話す吉田社長の姿勢は、これからも多方面の共感を得ながら必ず克服していくと感じた。

会社概要

企業名：株式会社 トーキョーオール
創業：1987 年 (昭和 62 年) 10 月
所在地：川崎市川崎区浅野町 4 - 11
電話：044 - 333 - 0012
代表者：吉田 基一 (ヨシダ キイチ)
資本金：3,000 万円
事業内容：金属部品 (電力会社・建築土木関連の公共事業向け) の製造・開発
U R L : <http://www.tkna.co.jp/>

美遊 JAPAN 有限会社 (産産マッチング)

Made in Kawasaki が詰まった自動販売機
「川崎イイモノ直売所」



共創担当（運営責任者） 岩 篤志

JR川崎駅の東口を出てすぐ、地下を降りると巨大なショッピングセンター川崎地下街「アゼリア」が広がっている。ここは買い物を楽しむ場所だけではなく、駅のコンコースとしてオフィスやバスターミナルへと続いており、日々多くの人が行き交っている。

その地下街の中央広場に、2022年3月14日(月)1台の自動販売機が設置された。その中には、川崎の農産加工物や地域の名産品など、市内事業者が作り出した「イイモノ」が詰まっている。

本稿では、自動販売機の展開を通じて市内企業同士が連携してきた過程とその今後について紹介する。

■ モデル事業への挑戦 ～ 企業間の連携

この自動販売機は、管理責任者である美遊 JAPAN の岩篤志氏が始めた事業である。岩氏に伺うと、川崎はたくさんの良いものや商品が多く地域にある一方で、川崎市は南北に長く、地域間で互いに良いものを知る機会が少ない事を気にしていた。そこで、「北の良いものを南でも」「南の良いものを北でも」手軽に知ってもらいたい。その思いから始めた事業である。

その頃、川崎市では「川崎市中小企業間連携新規事業化モデル創出事業」の公募を行っていた。これは、1社では解決することが困難な課題に対し企業間での連携する事で新たな取組の事業化及び生産性向上を図り、課題解決を目指す取組に対し市が支援を行うものであった。岩氏はこの事業の連携事業者として「おつけもの慶」で市内にてキムチ製造を行う(有)グリーンフーズあつみに連携を打診、承諾を得た。

■ 「イイモノ」を知ってもらう自動販売機

その後、さらに数社の参加を経て本事業の核となるメンバーを構成。事業化に向けた準備を始めた。メインテーマは「食のプラットフォーム構築事業」と決まる。これは、川崎市内における食に関する課題を解決するため、『共創』をテーマにしたもので、以下の3点がポイントとなる。

【食のプラットフォーム構築事業】

- ①農作物の生産地である川崎北部と消費地である川崎南部をつなぐ安価で安定した物流の構築
- ②販路開拓のためのJR川崎駅等エキナカの活用
- ③小ロットでのスピーディな試作品開発を支援し、これらに課題を抱える中小企業等への波及を図る

テーマが確立し、その中で川崎市内の事業者が販路開拓・PR活動を行うためのよい手法は無いかと模索したところ、自動販売機を活用する案が生まれた。

自動販売機ならば、ある程度の種類を並べて展開する事ができることと、有人店舗と違い人手をかけず24時間販売する事ができる。また何より、地域を越えたものを並べる事で、地域の垣根を越えて多くの人に川崎の「イイモノ」を手軽に知ってもらうには最適であったのが決め手となった。

その後、事業スキームを完成させ「川崎市中小企業間連携新規事業化モデル創出事業」に申請。無事、川崎市より採択を受けることができた。

採択後、事業化に向け着手を始め、自動販売機にて展開・販売する商品を決めるにあたり、川崎市とも連携を図った。川崎で注目を浴びている「香辛子（こうがらし）」の加工品など、「かわさき名産品」(※)の認定商品もある。市内事業者が作るもの、川崎地場産野菜を活用した加工品など、地域や業態の垣根を越えた「イイモノ」が集まった。

※「かわさき名産品」とは

川崎市内で生産・製造、または加工し販売されている品物の中から、おみやげにも使えるような川崎らしい品物を、川崎市、川崎商工会議所及び一般社団法人川崎市観光協会などで構成される「かわさき名産品認定事業実行委員会」が認定している。

その他にも、規格を統一するためにカプセルを用いる、重さを必要とするための重しの作成（中身が軽いと機械の中から落ちないため）といった自動販売機ならではの課題も出たが、企業間の連携で克服してゆき、2022年3月、直売所を川崎の地下街にオープンした。



■ 新たな展開 ～ 今後について

設置以降、購買者の反応は良く、普段では買いに行くには遠く難しい商品も、この直売所で手軽に手に入るようになった。また、初めて商品を買った人にとっても新たな川崎の魅力を知るきっかけとなった。

各種メディアにも取り上げられたことで認知度は高まり、取組は徐々に拡大。同年の12月15日(木)には麻生区郵便局の敷地内に2箇所目の直売所をオープンさせた。これは、麻生区内にかつて防空壕であった施設で育てた「防空壕きくらげ」を展開する熱源株式会社の船崎社長と共同で設置したものである。

今後は、この取組で構築した企業間の関係を活かして川崎市の魅力を発信する取組を継続する。岩氏によると「『川崎イイモノ直売所』の3台目4台目設置に向けて共同事業者を募集しています。加えて、ご参画頂いている企業の商品を、川崎イイモノ直売所ギフトセットとして販売していく予定もございます」と、さらなる展開を語る。

また、発信の手法は自動販売機だけではなく、市内各地におけるイベントへ共同で出展するなど、様々な手段で川崎市の「イイモノ」を伝えてゆく活動を連携して行ってゆく。



会社概要

企業名：美遊 JAPAN 有限会社

創業：2004年4月

所在地：川崎市川崎区大川町9-2 大川町産業会館 1F

電話：044-322-5171

代表者：代表取締役 岩 美恵子 (イワ ミエコ)・共創担当 岩 篤志 (イワ アツシ)

資本金：500万円

事業内容：飲食店経営、小ロットの商品開発受託事業、川崎イイモノ直売所企画運営
イベント企画・運営、総削り出しパター『鳴』の販売

URL：<https://www.miyu-japan.com/>

支援事業紹介

コーディネート支援活動・出張キャラバン隊

中小企業の新製品・新技術開発や大学等との共同研究などの新たな事業展開に対して、広範かつ専門的な知見を有する民間専門家等のコーディネータおよび各支援機関のスタッフ等が直接企業を訪問し、新規事業展開に活用できる各種施策の情報提供や、企業・大学・研究機関等の連携先紹介、課題解決等を目的に出張型のワンストップサービスを実施しています。

また、企業訪問活動を通じて出会った国内・世界のトップシェアを誇る製品、オンリーワンの技術、匠の技、生まれたてのアイデアなどについては、神奈川新聞社・日刊工業新聞社などのマスメディアへの情報提供を行なうことで、企業や製品のPRのお手伝いを行なっております。

【新産業振興課 連携推進係／044 - 548 - 4152】

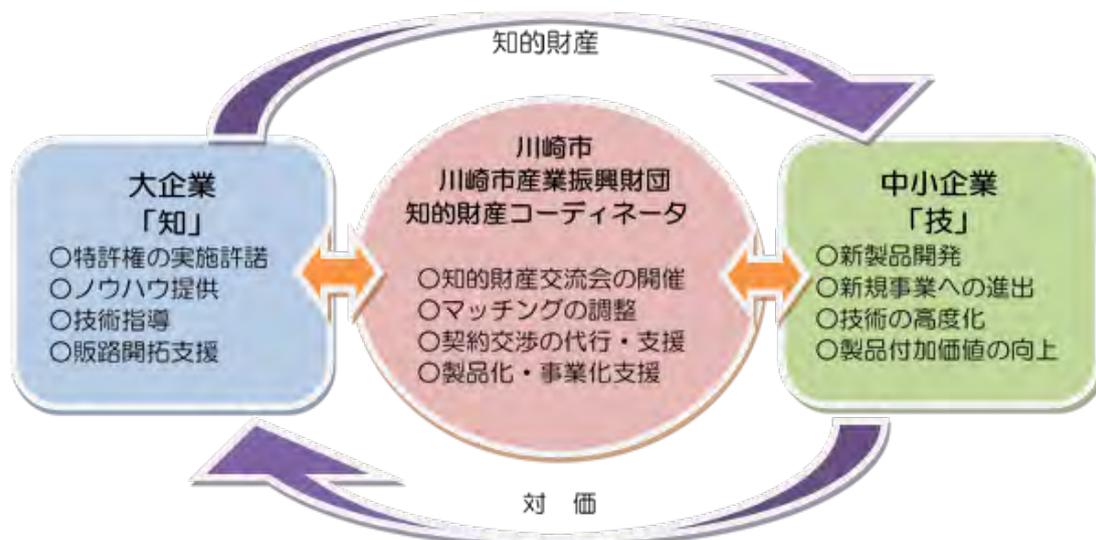
財団コーディネータが各種施策活用まで継続的に手引・支援
年間500社ペースで前向きな企業様へ訪問し、強みを深く理解



知的財産交流事業 (川崎市知的財産戦略推進プログラム重点事業)

大企業や研究機関等が保有する開放特許等の知的財産を中小企業に紹介し、マッチングから製品開発、販路開拓に至るまでの総合的な事業化支援を行います。

【新産業振興課 連携推進係／044 - 548 - 4164】

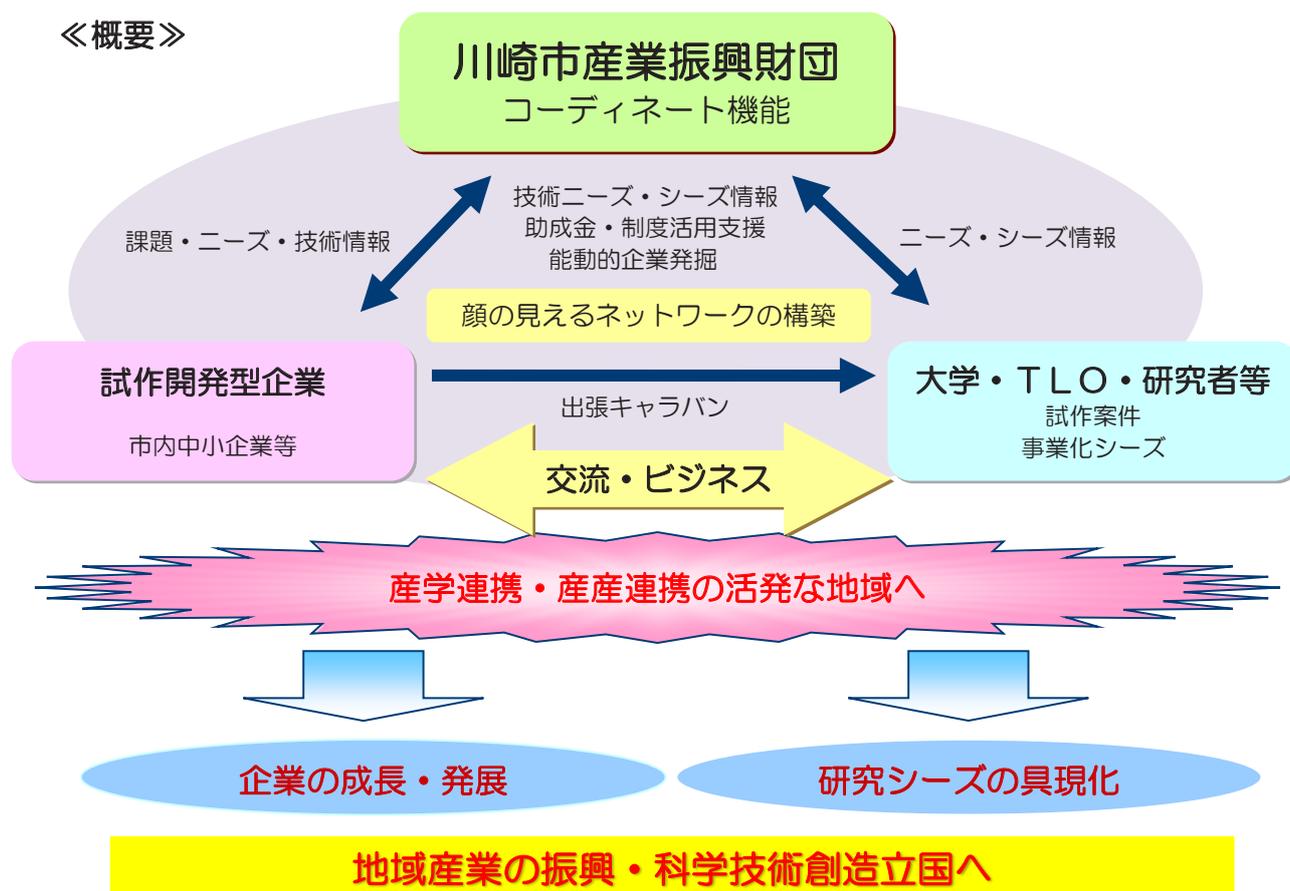


産学連携 試作開発促進プロジェクト

川崎市域に集積する中小製造業の重層的な技術基盤が大学の研究開発のスピードアップ、精度向上につながるという視点から、「大学から企業への技術移転」という一般的な産学連携だけでなく、「企業から大学への試作支援」といったシーズ研究段階における連携促進に向けたアプローチを行い、大学等の研究機器等に係る試作支援を通じて相互の信頼関係を築きながら、中小企業の技術力の向上、産学共同研究開発の促進など、「ものづくり都市・川崎」ならではの新たな産学連携を目指します。

【新産業振興課 新事業支援係／044 - 548 - 4165】

《概要》



川崎市産業振興財団の中小企業支援活動

公益財団法人川崎市産業振興財団（中小企業サポートセンター）は、中小企業を応援する総合支援機関です。経営革新、新事業進出、新規創業、産学連携など、様々な課題についてサポートします。

■窓口相談等事業

【中小企業サポートセンター／044 - 548 - 4143】

企業が直面する経営、税務、技術、特許等の様々な課題に対し、各分野の登録専門家が無料で適切な助言を行います。

■専門家派遣事業

【中小企業サポートセンター／044 - 548 - 4159】

有料で登録専門家を一定日数企業に派遣し、企業診断と課題解決のために必要な助言を行います。

■ワンデイ・コンサルティング

【中小企業サポートセンター／044 - 548 - 4159】

比較的小規模もしくは緊急性を要する経営課題を有する企業や個人事業主等を対象に、適切な登録専門家を原則1日単位で、即応かつ無料で派遣します。

かわさき起業家オーディション ビジネス・アイデアシーズ市場

全国から新規開業や新分野進出につながるビジネスプランを募集してオーディションを行っております。起業への登龍門ともなっており、優れたアイデアにはビジネスパートナーとの面談の場の提供や融資の利用等、アイデアを実現するためのサポートを行っております。

【かわさき起業家オーディション事務局／044 - 548 - 4163】

★ 受賞者一覧（第 131 回～第 134 回）

第 131 回 令和 4 年 7 月 22 日	
シンクロア株式会社	世界の「見える化基準」に革命を起こす特殊位相偏光照明
株式会社 BeautySpaceGlobal	美容家と顧客をマッチングする総合プラットフォーム事業
LOOVIC 株式会社	空間認知の社会課題を五感 IoT で解決する LOOVIC
株式会社 FISTBUMP	法律事務所向け事件カルテ「クラウドバランス」
第 132 回 令和 4 年 9 月 16 日	
株式会社 R65	高齢者の住宅難民問題を解消する「R65 不動産」
株式会社 イーストフィールズ	展示会特化型総合コミュニケーションサービス
FKS 株式会社	工期短縮とコストカットを実現する擁壁の工法「CRM 工法」
小寺 英志	地域密着現地対応型コンタクトセンター「C X コール」
第 133 回 令和 3 年 12 月 9 日	
株式会社 Moff	認知症と介護を予防するオンライン運動サービス「e コグニケア」
Sotas 株式会社	素材系中小企業の経済成長と環境負荷低減の基礎を作る「Sotas」
株式会社 フツパー	はやい、やすい、巧い、外観検査 AI「メキキバイト」
株式会社 AiCAN	データ活用で職員の意思決定を支援する児童虐待対応支援サービス
第 134 回 令和 4 年 3 月 10 日	
株式会社 3 C F	3 C F の技術を用いた革新的新素材「ナノダウン」
株式会社 コネクトアラウンド	企業の農業参入とダイバーシティを実現「FUN EAT MAKERS」
株式会社 OSHIRI	【川崎発】 OSHIRI を文化に
Re'bertas 株式会社	Re'match ～余った資源で繋がる輪～

* 第 130 回以前の受賞者一覧およびオーディションの詳細等は下記の HP でご確認ください。
<https://www.kawasaki-net.ne.jp/bizidea/>

新分野・新技術支援研究会（NFT）

新分野・新技術支援研究会（略称：NFT）では、主に市内企業を会員に、企業における新製品、新事業開発への基盤づくりを目指し専門研究会を設置し・定期的に開催しています。その他、会員同士の他、一般企業や研究機関等との技術・情報の交流を推進するとともに、技術・研究開発に関する各種セミナー等も実施しています。また、会員企業の技術・経営面での具体的な課題解決を図るため、専門家を派遣する他、公的施策活用の支援なども行います。
【事業推進課／044 - 548 - 4119】

※令和4年3月時点の研究テーマです。

研究会名	活動テーマ
DX ビジネス活用研究会	「”DX” とよく耳にするが、結局どういうものなんだろう」 「自社でDXを進めたいが、どこから手を付ければいいかわからない」 このような声にお応えするべく、下記の全3回の講義を通じて、DX推進やAI活用への道しるべを示します。
アクションリサーチ研究会	アクションリサーチは、小集団による活動により課題を解明し、得られた知見から全体の改善へと繋げる実践的な研究です。本プロジェクトでは、神奈川大学経営学部の学生の皆さんと企業を訪問し、社員の方とともに、実際の作業を通じて現場の課題を掘り起こし、改善の端緒とします。
初心者の為のAI（機械学習）研究会	パソコンは少し触れるが、AIが全く解らない方を対象にAI（機械学習）について学ぶことが出来ます。講師自身が、約20年前機械学習の元と言われている、ビデオカメラの顔検出機能～笑顔で撮影～美肌機能などの開発を行った時、後から参加した開発者に説明した経験があり、概念、基礎理論、AIの事例から、実際にGoogle TensorFlowを体験いただくものとなっています。
シン・人生100年研究会	「外部人材活用で中小企業の採用課題を解決！！」 「アフターコロナに今やるべきこと、成功事例から学ぶ」 今Z世代と言われる若手人材は大手企業に流れ、「若手が採用できない、採用してもすぐ辞める」と悩んでいませんか？そう考えている企業に、採用の考え方を根本から変えることをお伝えします。 もう一つの悩みは新卒がとりづらいということではないでしょうか？ 今、企業を選ぶポイントは「安定していること」です。ポイントは福利厚生充実や研修などによる積極的な投資です。学生が考える安定は「大手企業」から「自己成長の実現」へと変化しています。中堅企業だから新卒はとれない、ということではないのです。アフターコロナをチャンスと捉え、従業員の成長に重点を置くことで、会社の長期的な成長へとつなげてみませんか？

川崎ものづくりブランド認定事業

川崎市、川崎商工会議所などで組織する「川崎ものづくりブランド推進協議会」（会長 草壁悟朗〔川崎商工会議所会頭〕）では、川崎市内の中小製造業者等が生み出した優れた製品・技術を広く国内外にアピールし、製品の販路拡大、製品・技術のイメージアップ、新市場への進出などを支援することを目的として、平成16年度より川崎ものづくりブランドの認定事業を実施しています。

第19回目となる令和4年度においては、3件の製品・技術（次頁以降参照）を新たに認定しました。今回の3件を加え、現在、108件の製品・技術が認定されています。



【川崎市 経済労働局 産業振興部 工業振興課／044-200-2324】
【川崎商工会議所 企画広報部／044-211-4112】

第 19 回 川崎ものづくりブランド認定製品・技術 一覧

(会社名五十音順)

1 川崎ガラスのお墓「KAGLA」



【会社名】

株式会社沖セキ

〒210-0006 川崎市砂子 1-10-2 ソシオ砂子ビル 11 階

【製品・技術の概要】

墓石用装飾ガラス。デザイン性を求める顧客ニーズに応え、様々な色を使えるキャストガラスでありながら耐久性、耐熱性を備えている。

2 双方向テレビインターホン「触れないインターホン」



【会社名】

旭光通信システム株式会社

〒213-0011 高津区久本 3-2-3 ヴィルジュ溝の口 4F

【製品・技術の概要】

従来のインターホン機能に「映像」を付与し双方向で顔や状況を確認しながら通話できる高機能インターホン。

独自の有線通信技術を活用し、長距離通話が可能な上、高音質・高音量を実現。高速道路や鉄道駅で活用が期待される。

3 「提案型業務 IT システム特殊開発技術」



【会社名】

チームシロcco合同会社

〒214-0012 多摩区中野島 6-21-27

【製品・技術の概要】

システム仕様の設計と開発を同時並行し、各システム機能の独立運用やクラウド活用による運用保守作業の完全自動化など、先進的な仕組みを導入した独自の開発技術。

政府調達案件にも採用され、高い水準の安全性・機密性を確保した上で、柔軟かつ迅速に変えていくアジャイル型のシステム開発・運用が可能。

産・学・官 連携事例集
企業マッチング事例

編集・発行
公益財団法人 川崎市産業振興財団 事業推進課

〒212 - 0013
川崎市幸区堀川町 66 番地 20 川崎市産業振興会館 6 階
電話 044 - 548 - 4115

令和 5 年 3 月発行
(無断転載・複写を禁じる)